

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！



あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第65号 2012年12月1日発行

2012  
12  
月号

やまと  
さんぽ



市役所オークシティ側の  
会議室棟横にひっそりと  
咲くツバキの木がある。昨  
年度大和市「名誉の木」  
最優秀賞・高橋家のツバ  
キは深見にある。



●大和市スケッチ NOW・3回シリーズ(その3) 高座渋谷駅前複合ビル・イコーザ 絵・柴田 豊(大和市職員)

渋谷(南部地区)土地区画整理事業は、小田急江ノ島線高座渋谷駅を中心に、東西約 600 m、南北約 700 m、約 42ha を施行区域としています。

昭和 35 年の施行区域の決定から、長い年月と資金を費やした、大和市にとって今後ないであろう大規模な土地区画整理事業です。事業に伴う渋谷学習センターと渋

谷分室の移転建替えにあわせ、駅前の市有地を活用し、民間施設と複合化した「高座渋谷駅前複合ビル(愛称:イコーザ)」が建設されました。

平成 22 年に開館したイコーザには、地区のまちづくりの核として、世代間交流の場や賑わいの場の創出という役割が期待されています。

大掃除 プラス 交流会

12月28日(金)10時に集合。13時に解散(予定)

<送付の際、同封のご案内>

・第 56 回連続共育セミナー「会議上手になろう！」12/18(火)開催のご案内

\*「あの手この手」は大和市民活動センターのHPではカラーでご覧になれます。

# 笑顔あふれた2日間、広がる活動の輪

## カッコーフェスタ'12

第7回市民活動団体交流まつり

11/3(土)、4(日)

無事終了しました

「カッコーフェスタ」のキャラクター  
カッコちゃん

今年も  
皆に会えて  
楽しかった



来場者は約 4,000 人。屋内・外とも賑やか。ご来場ありがとうございました。

### 天候にも恵まれ、笑顔あふれる会場

師匠とお弟子さんが  
皿回しなど模範演技。  
見ていた大人も子どもも  
挑戦「オットット」



サトイモの解体ショー、  
丸ごと見るのははじめて。  
根っこにイモが団子状態、  
“なかなか、離れないよー”  
子どもは泥まみれでした。

### 「今年も会えたね！」 広がる活動の輪

さまざまな分野で活躍している大和市のいろんな団体が集まり、活動を披露しつながりを広く・深くするきっかけとなる活動交流フェスタも、今年で第7回目。

「お久しぶり、今年も会えてよかったです」と、普段は日常の活動などでなかなか会えない人たちに会えたり、新たな仲間に出会ったりして、「人の出会い」を感じられるシーンが多くありました。新たな活動の連携が生まれたことも。まさに、一般市民へ市民活動を広げ、また参加団体相互の交流を深める役割が定着した様子です。

これから大和の市民活動の更なる発展のためにも、このカッコーフェスタの場をより盛り上げる必要性を実感しました。来年度のカッコーフェスタで、またお会いしましょう。

## 連続共育セミナー

## 会議上手になろう！ ～会議進行役がポイントです～

ファシリテーター

次の第56回連続共育セミナーは、

### 会議が、すべてを決める

私たちは、日々いろんなことを決めるためにたくさんの会議に参加します。しかし、その会議の「質」が、団体の力を決めるひとつのポイントでもあります。

第56回連続共育セミナーでは、「全てを決める」会議をよりよくするために、「会議上手になろう！」をテーマに、会議進行役である「ファシリテーター」について学ぶこととしました。

みんなが納得できる、流れのよい、成果物がきちんと残る会議にするためのテクニックを、実践的に進めていきます。



日時:2012年12月18日(火)19:00~21:00  
会場:大和市渋谷学習センター 310 講習室

### 「会議を変えれば 社会が変わる」

をモットーにさまざまな会議のお手伝いをしてきましたが、会議をよりよくするためにできることは、実に小さなことの積み重ねです。どんなことがやれるのか？ について当日、体験を通じてともに学びましょう。



講師  
青木将幸氏  
(まさゆき)

開催概要については、  
同封のチラシをご参照ください。

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例  
第9条(協働の拠点)

市民等、事業者及び市は協働の原則に基づき、それぞれの役割分担に応じて、社会資源の充実を図るための協働の拠点を設置し、その充実に努める。

2、協働の拠点は、原則として市民等がその運営を担う。

※運営は[拠点やまと]が担っています。

登録団体を  
NPO 等として自立できるように支援

11/7(水)「藤沢市市民活動推進センター」訪問

指定管理者:NPO法人藤沢市市民活動推進連絡会  
手塚明美センター長からお話を伺いました。

藤沢センターでは、センターを活動の「拠点」ではなく「通過点」と位置付け、登録団体がNPO等として自立できるように支援している。

また、毎年、各団体に1年間の活動報告書を提出してもらい、次年度も登録団体として受け入れるか否かのチェックも行ない自立を促しているとのこと。

振り返って当センターを見ると、「拠点」として利用している団体も少なくないようだ。

当センターはどちらに進むべきだろうか。

(拠点やまと/弘中健一)



団体の基盤をしっかりサポート

市民活動推進センターは拠点、居場所ではなく、自立して巣立っていくためのステップの場であり、それに向けてのマネジメント支援に力を入れているとのこと。

ここに納得です。団体の基盤をしっかりサポートしていくというぶれない姿勢がありました。(市民活動課/村山真弓)

市民活動、行政、企業、個人…  
つながりを大切に、みんなで支え合う

11/22(木)「さがみはら市民活動サポートセンター」訪問

指定管理者:NPO法人さがみはら市民会議  
水澤弘子センター長からお話を伺いました。

さがみはら市民活動サポートセンターは、「ネットワークの醸成」を中心とする基本理念のもと、今年度10周年を迎えます。

「ネットワークの醸成」は市民活動のみならず、NPOと企業のコラボフェアを実施するほか、新規登録団体対象の「さが丸カフェ」では他分野の団体同士の協働や、行政や企業との連携を促し交流の輪を広げています。

また、中・高校生対象のボランティア体験や、市民活動団体と個人との人材交流もサポートしています。(拠点やまと/櫻井貞代)



中間支援施設も連携が大切

「相模ボラディア」という社協ボランティアセンター、国際交流センターと連携したボランティア支援の取り組みをされています。月一回の会議の場では、さまざまなアイデアも生まれるとのこと。連携を本当に実のあるものにするには、顔を合わせる機会を定期的に持つことに尽きるように思いました。(市民活動課/村山真弓)

「なにかしたい」「生きがいを見つけたい」

「私が役立つことはあるか」

それを見つける「ボランティア見学会」 11/29(木)実施

見学先・大和市障害者自立支援センター/泉の森/自然観察

センター・しらかしのいえ/大和市民活動センター

主催・市民活動課 共催・大和市民活動センター

大和市障害者自立支援センターでは「30年以上近くに住んでいて、ここにこんな『センター』があるなんて、知らなかった。見ることができてよかった」「就労訓練のパートナーさんのお手伝いくらいできそう」という声。

泉の森の自然観察センター・「しらかしのいえ」ではボランティア協議会スタッフからこんなボランティアのメニューがありますと丁寧な説明あり。「試しに森づくりの作業日に来たいと思います

ので、よろしく」と、さっそく参加希望の方がいました。

次回の「ボランティア見学会」は来年3月実施予定。

(同行・小杉記)



早くも12月、今年も残り1か月。

年越しの前に、やるべきことがあります。

大掃除&交流会

12月28日(金) 10時に集合です。

・10:00~12:00 大掃除

・12:00~13:00 交流会 ☆茶菓子ができるよ。

☆持ちより大歓迎。

大和市民活動センター 年末年始休館日

12月29日(土)~1月3日(木)

新年は1月4日(金)から開館します。

「センター」のある日ある時

11月10日(土) 晴れ

小田急江ノ島線側フェンスに掲示板があり、設置後3年ほど経って貼付テープの跡が日照や風雨にさらされ汚れていた。「福祉工房やまと」の小松寛和さんがカッコーフェスタの際に気づき「きれいに、しましょか」と申し出。本日、手持ちの資材を使い、見違えるほどきれいにしていただきました。感謝!





大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する  
月刊広報紙「あの手 この手」。  
2012年12月号(第65号)をお届けします。

今年9月24日(月)。

私はフィンランドの首都ヘルシンキの隣になるヴァンター市のパッカランリンネ(Pakkalanrinne)保育園にいました。

この園のクリスタ(Krista)園長は我々訪問視察メンバー7名にこの保育園の理念と保育方針について、以下のような内容をまず講釈し、保育中の子どもたちを視察中、具体的なシーンを通して、繰り返し述べたことがありました。

ここでは子どもたちを基本的に4~7名の小さなグループにします。この子どもの構成メンバーはほとんど替えませんが、そのグループにつくひとりの保育者は臨機応変に替わります。

さて、少人数グループにする理由は、まず第一義として、質の高い相互コミュニケーションを獲得、保障する場でありたいからです。子どもどうしのコミュニケーション、大人の保育者としてしっかりアイコンタクトし、コミュニケーションできる訓練の場であってほしい。そして2番目の目標は子どもたちの自発的なグループへの「参加」です。このグループの一員だという認識、この小さなグループに喜んで迎えられているという実感を持つての参加。そして保育者は一人ひとりの子どもは今、どんなことに興味があり、どこに大人の支援が必要なのかを見極めつつ、そのグループを保育する。

そうか。

「質の高い相互コミュニケーション」そして「自発的な『参加』」、私は園長クリスタさんの言葉から、これって「市民性」という大事な感覚を育てるキーワードではないのかと思いました。

自分たちの共同体(=社会というか、自治体)は市民一人ひとりが担い、構成されている正(まさ)しく大きな「グループ」。そこに参加し、発言し、議論し、行動し、責任をとる。その自覚ある市民としての基礎の育ちをフィンランドの保育園では乳幼児から育てているのだと、ひとり頷(うなず)いていました。

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2012/11/28



イラスト:望月則男